

い釣れ釣れなるままに

1994年思い出の釣行記 PART. 7

春立



鹿島釣狂

釣遊会第7回大会

☆開催日	平成6年11月20日		
☆開催場所	厚賀～三石川		
☆入釣場所	春立		
☆潮	干潮	22:06	15cm
	満潮	04:59	135cm
	干潮	09:54	94cm
☆天候	晴れ 微風 波1m～2m		
☆釣果	アブラコ	390mm	1
	カジカ	360mm	3
	ハゴトコ	mm	多数
	重量	3350g	
☆成績	点数	1085	点
	順位	4	位

9月に教育長、校長、教頭、教職員からの推薦を受け、10月16日教頭論文選考試験、11月18日面接選考試験と続き、釣り大会はもちろん個人での釣行も自粛していた。学習の成果は十分に出たと思う。

さて、今回は面接選考から2日後の大会である。9月と10月の例会に参加できなかったこともあり、万全の態勢でというところだが、結局土曜日の15:00から準備することになる。カナダ屋で仕入れたイカゴロ、カツオを家の中に持ち込み、溶かしてからエサづくりとなる。場所の選定もままならない。「まあ、いつものようにバスの中で情報を収集して決定するか」となる。しかし、バスの中ではあまりパツとした情報を手に入れることができず、かつて知った（といっても3回だが）春立にはいることになる。バスは厚賀で吉井氏を下ろし、判官館では佐々木（秀）氏、大前氏、大別苺で多数を下ろした。私が交番裏で降ろしてもらった時には嵐、相馬、秦野氏が残った。

交番前はテトラが高く積まれ、テトラとテトラの間には多数の釣り人が入っている。仕方なく砂場を通り抜け、交番右に張り出した岩盤に入る。さらに左方向には5、6人の入釣者がいたので釣果を伺うがピンコハゴトコのみという。満潮に向かっているの、わずかの時間だが2本の竿でイカゴロやバクダンを打つ。

32cmのカジカが上がる。さらに、36cmが来る。アタリもありさあこれからというところだが、ウネリが膝まで駆け上がる。やむなく岸まで下がって打ち続けたがアタリが出ない。2:00移動を決め、2魚種目をアカハラに設定し、春立漁港に向かう。しかし、釣り人は一人もおらず波も全くない。4:00まで粘ったが1度アタリがあったきりでピクツともない。諦めて、春立入口の岩盤に向かう。清田氏の十八番は他の釣り会の人たちで満員である。さらに右で1昨年53.2cmのアブラコをあげたところに入る。満潮時なの

で岩盤の上には出ることができず釣りづらく、しかもアタリもない。さらに右に移動して立ち込みとなるが3本の竿を出す。ここでやっとチビハゴトコが来る。2魚種はそろった。あとは大物だが……。カジカ33cmが来る。8:00頃、大きなアタリがある。カジカとは違いグングンと刺さるアブラコ特有の引きである。隣の道糸と絡んでしまい、魚を平盤に上げることはできず、口の中に手を入れて取り込んだ。事なきを得たが、立ち込みは竿2本とすべし。締め切り時間が来て、ハゴトコ1尾を審査に提出する羽目になる。

平成6年度 釣遊会年間成績

1.	4/17	豊浜～栄浜	欠		
2.	5/22	寿都～豊浜	政泊平盤	835点	12位
3.	6/26	歌別川～岬港	ゴジラ岩	888点	10位
4.	7/17	庶野～目黒	咲梅	1045点	3位
5.	9/17	東静内～三石川	欠		
6.	10/16	様似～エリモ港	欠		
7.	11/20	厚賀～三石川	春立	1085点	3位

累計点 4回 28点 ÷ 4 = 7点

$$(835 + 888 + 1045 + 1085) \div 4 = 963$$

7回大会の内、5回の成績で争われる年間入賞は、4回の大会参加に終わってしまったので入賞はなし。